

災害と社会資本整備

放送大学 新潟学習センター
所長 大川 秀雄
H28.10.13

災害の種類

自然災害

複合災害

- ・複数の自然災害
- ・自然+人為 災害

事例: 福島原発

人為災害

事件・事故、テロ、戦争
公害、医療

交通災害

自然災害の種類

気象災害

風災 : 台風、低気圧、竜巻、高潮、高波

降雨災害: 洪水、内水災害、山・崖崩れ、土壌侵食、土砂流出
(土石流、泥害)

異状気象: 長雨、濁水・早魃(塩害)、大気乾燥(火災)、冷害
酷寒(気温低下)災害(寒波)、酷暑(気温上昇)災害(熱波)

雪氷災害: 豪雪、吹雪、雪崩、凍結

霜害、雹害、雷害、霧害、湿害

地変災害

震害 : 震動、液状化、津波、断層、山・崖崩れ、盛土崩壊、地盤沈下、
陥没・落盤、落石

火山災害: 熔岩流、火砕流、降灰、噴石(火山弾)、噴気、火山泥流
地滑り災害

動物災害

熊、猪、猿、鹿、鳥、昆虫・・、象、虎

天文災害

隕石

社会資本

社会的間接資本、社会共通資本

インフラInfrastructure、社会基盤(施設・構造物)

社会基盤整備

道路・港湾・上下水道・公園・公営住宅・病院・学校など、**産業や生活の基盤となる公共施設のこと。** (大辞泉)
国民経済発展の基盤になる公共諸施設(道路・鉄道・港湾・空港等の運輸施設、郵便・電信・電話等の通信施設、電気・ガス・水道、堤防、ダム、住宅、土地造成等)。私企業の枠を越えるこれら施設はふつう政府または公共団体の手で整備され、社会資本の拡充は経済政策の主柱とされる。(百科事典)

インフラストラクチャー

国民福祉の向上と国民経済の発展に必要な公共施設(wikipedia)

残念ながら

防災施設・設備 については記述がない

なぜ **防災施設・設備** の記述がないのか

経済成長や生活水準の向上に主眼が置かれていた。
つまり、発展の妨げになる災害の防止や被害の收拾のための付加的なものとしての位置づけ(脇役的存在)だったのではないか。



事業仕分けの格好の対象

社会が成熟する一方、大災害の多発



安全・安心をこれまで以上に強く求める社会への移行
(財産はもとより生命もその対象)



防災関連予算の顕在化

防災施設・設備

河川堤防、ダム、砂防ダム・堰堤、海岸堤防(防潮堤)、
潜堤、地盤嵩上げ、津波避難施設、集団移転
地盤改良、建造物の耐震化、地すべり防止、斜面安定化、
法面保護、.....

各種計測・観測機器&ネットワーク、緊急連絡ネットワーク

ハザードマップ作成・整備

避難所・施設の整備・充実

防災関連施設の宿命

「万が一」への備え → 出番がないことがHAPPY
(警察、消防、自衛隊と同じ)

平常時には邪魔となる場合が多い…ムダにも見える

目に触れる事が少ないものがある

景観上問題となることもある



理解を得たり上記に対して配慮する努力が必要

防災事業は安全保障問題である

安全保障とは
国家の対外的な安全を確保すること。

災害を我々の日常生活に対しての敵と見れば

防災事業は 対内的な安全保障問題

国土強靱化策 は 対内的な防衛力強化策

B/Cに惑わされるな

経済的な短期的視野での合理性の概念に依拠する尺度

社会資本整備(公共事業)には馴染まない点がある
人間の行動や思いのすべてをBに置き換えられない

B/Cはあくまで一つの指標、参考指標と割り切るべし

同種事業間の優先順位付けに役立つ程度

しかし、必ずしも数値が大きい方を採用、低い方を不採用とはならない

B/C < 1 はダメか

当然、あってしかるべし

特に防災関連事業では起こり得る

ただし、個々の事案に対して慎重な判断と丁寧な説明を要する

結論

社会資本整備は、儲かる儲からないとか、経済的な眼前の損得勘定で判断されるものではなく、これまでの経験と知恵に基づいて永い将来を見据えての事業であるべきで、毅然としてその計画・策定に当たるべき最重要施策である。